

<秋の七草>

春の七草があるように、秋にも七草があります。調べてみると、万葉集にある山^{やま}上^{のうえ}憶良^{のおくら}の短歌が由来だそうです。

女 ^{おみなえし} 郎 ^{ななし} 花 また ^{ふじばかま} 藤 ^{ふじ} 袴 ^{ばかま} 朝 ^{あさ} 顔 ^{がほ} の花	萩 ^{はぎ} の花 尾 ^{おぼなくすばな} 花 ^な 葛 ^{くず} 花 ^{はな} なで ^{なで} し ^し こ ^{この} の花	か ^か き ^き 数 ^{かず} ふ ^れ ば 七 ^{なな} 種 ^か の花	秋 ^{あき} の野 ^の に 咲 ^さ きた ^る 花 ^を 指 ^さ 折 ^り	
---	---	---	---	--



秋の野に咲いている花を指折り数えてみれば、七種類の花がある。そして二つ目の歌で、実際にその花の名前を挙げています。つまり、二首で一組となっています。春の七草は食べて味わい、秋の七草は見て楽しみます。ちなみに尾花はススキ、朝顔はキキョウというのが定説だそうです。ハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ、今年の秋はたくさん出会えるといいですね。

$$\frac{(x + 8) \times 5}{9} = \text{気温}$$

x: 15秒間にコオロギの鳴いた回数

<コオロギ>

朝夕が少し涼しくなり、コオロギの鳴き声が聞こえるようになりました。ところで、コオロギの鳴く回数と気温の間に上のような関係があるという話を聞いたことがあります。コオロギは羽をこすり

合わせることで鳴きます。コオロギは変温動物なので、気温が高くなると活発になり鳴く回数が増えそうな感じがします。逆に気温が下がると鳴く回数が減りそうな感じもします。ここまでは何となく納得もするのですが、こういう式に表すことができるとなると・・・この式からは気温が30℃のときコオロギの15秒間に鳴く回数は46回、25℃では37回、20℃では28回ということが分かります。確かめてみようと思いましたが、これが難しい。鳴き声は「コロ」を1回と数えるので、「コロコロコロコロ」と鳴いたのであれば4回となるそうです。数えられるようなスピードでコオロギは鳴いてくれませんでした。また、そもそも自然の中では、一匹のコオロギだけが鳴いているわけではないので、確かめるのであればつかまえてきてそのコオロギを観察しながら数えることが必要となるでしょう。でも、面白そうです。興味のある人は、ぜひ確かめてみてください。

